



集英社創業100周年記念企画

中国現代文学ギャラリー

Chinese Contemporary Literature Gallery



【全5巻】

2026年11月より刊行開始

集英社



30年の潮流を凝縮。 中国現代文学の「今」を知る、必読の小説選。

変化し続ける現代中国。私たちはその姿を政治・経済の視点で語ってきた。しかし、生活者である個人の視点でとらえなおすと、そこに浮かびあがるもの、見えるものが変わってくる。

文学は、国家ではなく個人を描く。大陸で生きる人々の歴史のおよび日常的体験や思考・感情に触れることは、これまで抱いていたステレオタイプの印象と認識に変化をもたらし、激動の現代中国をキャッチアップするための新たな土台になり得る。隣人理解の解像度が上がれば、ひいては自分たちを知ることにも繋がるはずだ。

そうむずかしく考えなくとも、隣人たちがどう生きてきたかを知ること、そこに自分たちとの共通点や相違点を発見する面白さを、ページをめくりながら味わっていただきたい。

本ギャラリーの魅力

- ① 幅広い世代の作家による作品——主流のリアリズム小説のほかSF、ミステリーやナンセンス小説も収録した、多様な中国現代文学の入り口となるシリーズ。
- ② 主に1990年以降の約30年間に書かれた作品を対象に、5つのテーマで巻を構成。
- ③ 各巻に8～12人の作家の中短篇を収録。シリーズ全体で55篇を予定。
- ④ 全篇、刊行時における日本単行本未収録作品。本国未発表の作品も含む。
- ⑤ 専門家による充実した解説を収録。綿矢りさ氏が読書案内を執筆し、読者を中国文学の世界へと誘う。



第1回配本
「移動と漂流」

発売日：2026年11月5日(木)
ISBN978-4-08-157022-5



第2回配本
「家族とくらし」

発売日：2026年12月4日(金)
ISBN978-4-08-157023-2



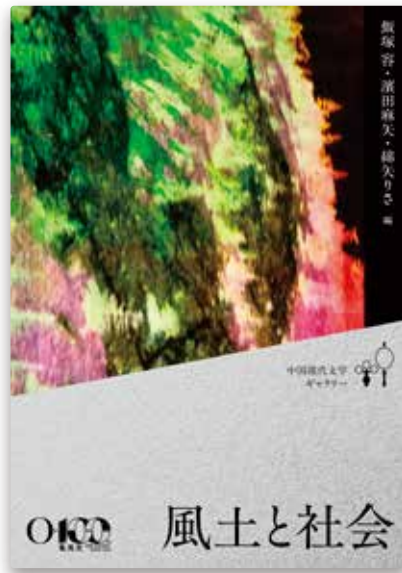
第3回配本
「時間と記憶」

発売日：2027年1月7日(木)
ISBN978-4-08-157024-9



第4回配本
「ジェンダーと多様な性」

発売日：2027年2月5日(金)
ISBN978-4-08-157025-6



第5回配本
「風土と社会」

発売日：2027年3月5日(金)
ISBN978-4-08-157026-3

共通仕様：
判型・体裁：四六判ハードカバー
400ページ前後(読書案内+本文+解説)
本体予価3,000円/予価3,300円
ブックデザイン：川名潤

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

I 移動と漂流

改革開放政策により、都市化と国際化が急速に進んだ中国社会。故郷を離れて出稼ぎに向かう「農民工」や海外移住者、長距離移動の途上にある人々を描く12篇を収録。移動がもたらす他者との邂逅や喪失、新たに生まれる葛藤を通して、激動の時代を生きる人々の姿を浮き彫りにする。綿矢りさ氏訳の魯迅作品も収録。著者は閻連科、班宇ほか。

代表著者の紹介



閻連科(イエン・リエンコー) 1958年河南省洛陽出身

魯迅文学賞、フランツ・カフカ賞、Twitter文学賞、フェミナ賞候補、国際ブッカー賞候補

軍の専属作家として創作を開始し、現在は中国人民大学教授。代表作『丁庄の夢』を始めとする作品は30以上の言語に翻訳されている。「荒誕リアリズム」と評される超現実的な作風で国家と個人の緊張や社会の矛盾を描き、度重なる発禁処分を受けながらも、フランツ・カフカ賞受賞、ノーベル文学賞候補等、国際的に高い評価を得る。



班宇(バン・ユー) 1986年遼寧省瀋陽出身

茅盾新人賞

音楽評論から創作へ転じ、短篇集『冬泳』で注目を集める。1980年代生まれの「新東北作家」の代表格と目され、国有企業の解体や産業衰退後の東北地域を背景に、社会の変動に翻弄される労働者や家族の姿を描く。東北の風俗や厳しい現実と根差し、哀しみと温かさが交錯する筆致を特徴とする。

I 「移動と漂流」 収録作品一覧

「さすらい」

2018年発表／飯塚容記

班宇(バン・ユー)遼寧省瀋陽出身

茅盾新人賞

人工透析を受けている許玲玲は気の合わない父とふたり暮らし。ある日、小・中学校からの男女の友人と1泊2日の旅に出る。それぞれ悩みはありつつも楽しく飲み交わして眠ったが、思いがけない友人たちの行動を知って心が乱れ……。

「夜汽車」

2015年発表／松村志乃記

文珍(ウェン・ジェン)湖南省婁底出身

茅盾新人賞、華語文学メディア大賞

余命わずかな夫・老宋と夜汽車で旅に出た妻の「わたし」は、大興安嶺の雪深い土地で二人の結婚生活に想いを馳せる——夫の裏切り、その後の喧嘩と家出、別居、夫の発病。旅先で、ついに老宋が動けなくなり……。

「小鄭」

1997年発表／久米井敦子記

鉄凝(ティエ・ニン)北京市出身

フランス・芸術文化勲章、魯迅文学賞

田舎から出てきて役所で雑用係として誠実に働く小鄭。面倒見のいい守衛室の老馮、愚痴ばかりの炊事係、北京から来た読書家の大学院生・杜康らとの出会い、そしてタイピスト・秦紅との苦い恋を経て、小鄭は成長していく。

「従妹の隣に眠る男」

2008年発表／立松昇一記

朱山坡(ジュー・シャンポー)広西チワン族自治区北流出身

深圳で出稼ぎをしていた従妹は、性的な嫌がらせを受け、ビルから飛び降り左足を失った。彼女は二度と深圳に戻らないと誓い、故郷・湖南株洲へ帰るバスに乗る。道中、隣の男はずっと眠ったままだが、逆隣りに座った男が過労死した兄の話をしはじめる。

「五鳳派出所はこの先にあり」

2013年発表／飯塚容記

林那北(リン・ナーベイ)福建省福州出身

共同生活を送る塗装工の王保平と強生。王保平は強生の身分証を使ってスマホを手に入れ、360キロ離れた福州に自転車で帰ろうとする。無理やりついていく強生。旅の終わりに王保平は強生に帰郷の理由を打ち明ける。

「忘れられた片腕」

2013年発表／飯塚容記

閻連科(イエン・リエンコー)河南省洛陽出身

魯迅文学賞、フランス・カフカ賞、Twitter文学賞、フェミナ賞候補、国際ブッカー賞候補、ノーベル文学賞候補

河南から北京郊外に出稼ぎに来ている少年・銀子。ある日職場で事故が起き、同郷の金棒が命を落とした。事故後、現場に残されたままだった金棒の片腕を見つけた銀子は、故郷にこの腕を届けることを決意して……。

「モロッコ王子」

2015年発表／上原かおり記

徐則臣(シュー・ゾーチェン)江蘇省東海出身

華語文学メディア大賞、魯迅文学賞、茅盾文学賞

北京でしがいない仕事をしている「俺」は、地下鉄の中を流して歌っている王楓に出会う。物乞いの女の子・花ちゃんを気にかけている王楓。誘拐され、売られてきたという彼女を、王楓は故郷・江西まで送り届けると言って出ていくが……。

「酒楼にて」

2014年発表／小笠原淳記

蔣一談(ジャン・イータン)河南省商丘出身

北京でアカデミズムに乗り切れないでいた「僕」に紹興の伯母から手紙が届く。その内容は、全財産をのこすので、不治の病に蝕まれた自分に代わり、重度障害を持つ息子の面倒を見てほしいというものだった。

「ワシリー」

2020年発表／土屋肇枝記

鍾求是(ジョン・チウシー)浙江省温州出身

魯迅文学賞

売れない脚本家の「私」は旅行先のサンクトペテルブルクで、中国から来た老人に出会う。短い旅のあいだ店で幾度か顔を合わせた老人は、青春時代と初恋、ソ連への憧れなど、長年の思いを語り出す。

「最後の別れ」

2021年発表／鷲巣益美記

残雪(ツァンシュエ)湖南省長沙出身

ノーベル文学賞候補、国際ブッカー賞候補

病に苦しめられている釘子のもとに、父親の元同僚だという茅おじさんがやってくる。小男でいかにも脆弱な茅おじさんが歌う山歌に癒され、やがて遠くの村まで出かけられるようになると、釘子は自分の歌声が人を癒せることを知り……。

「冬の庭園」

2019年発表／小笠原淳記

王侃瑜(ワン・カンユー)上海市出身

世界華語SP星雲賞、ヒューゴー賞候補

「私」はパラレルワールドを実験対象とする量子物理学の秘書をしている。ふとしたことからパラレルワールドへレポートする方法を知った「私」は、解雇目だったこともあってレポートを試み、冬のダブリンへ跳ぶ。

「孔乙己」

1919年発表／綿矢りさ記

魯迅(ルー・シュン)浙江省紹興出身

魯鎮にある立ち飲み居酒屋・咸亨酒店に通う孔乙己と呼ばれる男は、客たちの笑いの種にされている。科挙の試験に受からず、怠け者かつ酒好きで、時々盗みを働くこともある孔乙己を、店のカウンターから「俺」が見つめる。

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

II 家族とくらし

人口政策と経済発展が社会構造を塗り替える中で、揺らぎ、再編されてきた家族という単位。一族の歴史、夫婦の危機、親子の対立、高齢者の婚活などを通して、世代間の緊張や孤立、ケアの重圧を背負う人々の姿を描く12篇を収録。人々の暮らしの細部から、家族関係の現在を照らし出す。著者は莫言、郝景芳ほか。

代表著者の紹介



莫言(モーイエン)1955年山東省高密出身

ノーベル文学賞、茅盾文学賞、華語文学メディア大賞、日本・福岡アジア文化賞

飢餓に苦しむ幼少期より作家を志し、人民解放軍在籍中に頭角を現す。代表作『赤い高粱』『蛙鳴』などで、故郷の民間伝承と歴史、現実を融合させた「幻覚的リアリズム」を展開。国家政策や暴力の影のもとで生き抜く民衆の生命力を描いた。中国籍の作家として初のノーベル文学賞を受賞した中国現代文学の第一人者。



郝景芳(ハオ・ジンファン)1984年天津市出身

ヒューゴー賞、華語文学メディア大賞、銀河賞

清華大学で物理学と経済学を修め、研究機関勤務を経て作家の道へ。現代中国SFを代表する知性派作家。「北京 折りたたみの都市」でヒューゴー賞を受賞。都市の階層化や経済格差等の問題を緻密な世界観と理知的な視点で描く。教育分野での起業家として世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダーズにも選出された。

II 「家族とくらし」収録作品一覧

「家族ごっこ」

2007年発表／後藤典子訳

畢飛宇(ビー・フェイユー)江蘇省興化出身

フランス・芸術文化勲章、魯迅文学賞、茅盾文学賞

高校時代は恋愛をしないと決めている小艾は、好意を寄せてくる同級生と家族ごっこで「夫婦」になる。校内には夫婦が何組もいて、長幼の序が乱れるほど関係は複雑。小艾には他にも毎日深夜に連絡を取り合う「息子」がいて……。

「母の島」

2014年発表／宮入いづみ訳

陶麗群(タオ・リーチュン)広西チワン族自治区百色出身

19歳の時、祖母に買われて父親の妻となった母親。50歳の時、突如家を出て川の中洲でひとり暮らしを始めた。娘の「私」は母親を迎えに行くが、母はそ知らぬ顔で忙しく立ち働くばかり。「私」たちは、これまで家族の「もの」だった母親の新たな姿を知る。

「ロスト」

2020年発表／河村昌子訳

梁鴻(リアン・ホン)河南省鄧州出身

華語文学メディア大賞

創作のために家族を捨てたはずだった「彼女」は、なぜか夢の中で夫と次男の住む家に帰ってきた。続いて「彼女」は、3人の強盗に身柄を拘束され、荒れ果てた一軒家に押し込まれるのだが……。

「おともだち」

2018年発表／樋口裕子訳

黄咏梅(ホアン・ヨンメイ)広西チワン族自治区梧州出身

魯迅文学賞

広西梧州の街でよく飲茶をする左麗娟と顧智慧。知り合って半世紀、虚言癖のある左麗娟に振り回されつつも、顧智慧は彼女との友情に支えられている。久しぶりに顔を合わせたある日、左麗娟は突然故郷に帰ると言い……。

「二〇五〇年推し活事件」

2021年発表／上原かおり訳

郝景芳(ハオ・ジンファン)天津市出身

ヒューゴー賞、華語文学メディア大賞、銀河賞

権力者の愛人となっている姜敏のもとに、娘が事件を起こしたという知らせが届く。娘のルナは、推しを人気ランキングのトップに据えるため、母の情夫が所有する装置を利用して何千人もの少女たちを操ったというのだが……。

「愛を求めて」

2018年発表／宮入いづみ訳

裘山山(チウ・シャンシャン)浙江省杭州出身

魯迅文学賞

記者の魏昊宇は、子供の命を救ったという84歳の曹徳万の取材に行くが、件の人物は風変わりな老人だった。取材中、曹徳万が恋愛中の女性に会うため、毎日始発のバスで出かけていくという話に引き込まれ……。

「語り尽くせないこと」

2016年発表／飯塚容訳

王彪(ワン・ピアオ)浙江省台州出身

年老いて不調が続く明甫誠。上海の病院での診察を控え、息子・明亮の家を訪れる。父とまともに話をしていないことにハッとする息子、息子とすれ違ってばかりいた親子関係を振り返る父親。互いに歩み寄ろうとするが……。

「雪は南部からやってくる」

2019年発表／立松昇一訳

張惠雯(ジャン・ファイウェン)河南省西華出身

ボストン郊外にひとり住ましている初老の「彼」のもとに、ニューヨークで暮らす娘から英語のメールが届く。それは、20年近く前、父親の恋をひきさいたことを告白する内容だった。

「わが友アンドレ」

2013年発表／大久保洋子訳

双雪濤(シュアン・シュエタオ)遼寧省瀋陽出身

華語文学メディア大賞、ブランパン・理想国文学賞

1997年の東北。規則の多い学校生活の中で、「僕」は安德烈という一風変わった少年と友情を結ぶ。彼のおかげで「僕」は将来に希望を持つが、それは教師の不正によって打ち砕かれた。義憤に駆られたアンドレが取った行動は……。

「お祖母さんの前歯」

1999年発表／立松昇一訳

莫言(モーイエン)山東省高密出身

ノーベル文学賞、茅盾文学賞、華語文学メディア大賞、日本・福岡アジア文化賞

姑に虐待され続けていた「僕」の母。出生時に前歯が生えていた「僕」を不吉と考え、祖母は溺死させようとする。母はとっさに祖母を殴って「僕」を取り返したが、祖母の前歯は折れ、性格も変わってしまった。そして99歳となった祖母の身に起こったのは……。

「プーリ再訪」

2016年発表／土屋肇枝訳

黄蓓佳(ホアン・ベイジア)江蘇省如皋出身

退職した「私」は夫と、思い出の地・イギリスのプーリを旅することに。道に迷う中での土砂降り、夫の無神経な発言、通じない英語——中年夫婦の旅のトラブルは、夫が、ある女性を見舞いたいと言い出したことで最高潮に達し……。

「蘭亭恵」

2022年発表／河村昌子訳

潘向黎(パン・シアンリー)福建省泉州出身

魯迅文学賞

上海にある老舗の広東料理レストラン、蘭亭恵。50代の夫婦は、息子が捨てた恋人をもてなし、贈り物をする。貴州出身の彼女は29歳、家族のようにつきあってきたのに息子は心変わりしてしまったのだった。

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

Ⅲ 時間と記憶

日本による「満洲」(中国東北部)の占領支配や毛沢東の死、天安門事件などの時代を画する出来事を背景にした作品から、近未来中国を舞台にしたSFまで、多様な時間軸を横断する11篇を収録。公的な歴史認識から抜け落ちてしまう一般庶民の苦難、運命、人生選択を、個人の記憶に寄り添うフィクションとして描く。

著者は余華、韓松ほか。

代表著者の紹介



余華(ユー・ホワ) 1960年浙江省杭州出身

フランス・芸術文化勲章、華語文学メディア大賞、ノーベル文学賞候補

歯科医から作家へ転じた異色の経歴を持つ。庶民の過酷な運命を描いた代表作『生きる』は映画化もされ、世界的に高い評価を受けた。中国文学の伝統的なリアリズム手法に抗い、外国文学の影響を受けた実験的な構成と文体で人間の不確実性を描き、蘇童、格非らとともに「先鋒派」と呼ばれた。



韓松(ハン・ソン) 1965年重慶市出身

世界華語SF星雲賞、銀河賞、ヒューゴー賞候補

新華社通信の記者を務める傍ら作家デビューした知性派。代表作『無限病院』において、システムへの従属や人間性の喪失を鋭く問い直した。ハイテク社会に潜む暴力や全体主義を悪夢のような不条理のイメージで描くディストピア的な作風が特徴。劉慈欣、王晋康、何夕と並び「中国SF四天王」のひとりとして知られる。

Ⅲ「時間と記憶」 収録作品一覧

「伝説の死」

1991年発表／関根謙訳

李銳(リー・ルイ)北京市出身

フランス・芸術文化勲章

清朝末期に生まれ、文革後に死んだ六姑婆。亡き父の教えに従って、暴動が起きようが抗日運動が起きようが、弟妹を守り抜く。女の直感と大胆さで、人生でたった一度の政治的選択を成し遂げたが……。

「小野先生」

2021年発表／鷲巣益美訳

金仁順(ジン・レンシュン)吉林省白山出身

現代の長春。作家の「私」は、残留孤児2世の友人に頼まれて、日本人の歴史研究者・小野先生の観光に付き合うことになる。先生の父はかつて関東軍に所属しこの町に駐屯していたが、戦後は一切自分の過去を語らなかった。

「父」

2005年発表／濱田麻矢訳

楊顕恵(ヤン・シエンフイ)甘肅省蘭州出身

華語文学メディア大賞

大躍進政策下の1958～1961年頃、何至真は両親、2人の妹の5人家族。父が建設工事に駆り出されている間に飢饉が始まり母を失う。その後帰ってきた父は、過酷な政治体制を目撃してすっかり臆病になっており……。

「最高指導者の死」

1993年発表／加藤三由紀訳

韓少功(ハン・シャオゴン)湖南省長沙出身

フランス・芸術文化勲章、魯迅文学賞、華語文学メディア大賞

「最高指導者」の国葬の日、住民たちの嘆く様子を撮るべく、ゆかりの村にテレビクルーがやってくる。「追悼会」を「祝賀会」と言い違えてしまった村のインテリ・魏長科は、失態を取り戻すべく涙を流そうと悪戦苦闘する。

「二つの物語」

2000年発表／飯塚容訳

史鉄生(シー・ティエション)北京市出身

魯迅文学賞、華語文学メディア大賞

公園で見知らぬ老人に出会った「ぼく」。老人は2つの物語を話す。1つは、スパイの濡れ衣を晴らすため証人を捜し続けていた、自身の話。もう1つは、復讐を果たした男が相手の服から意外なものが出てきて当惑する話だった。

「初雪」

2022年発表／小笠原淳訳

宋明煒(ソン・ミンウェイ)山東省済南出身

1989年、夏の済南。天安門事件の後の重苦しい雰囲気の中で、「僕」の学校には微妙な空気が漂っていた。朗らかだった美術教師は表情をなくし、「僕」が憧れていた同じ集合住宅に住む画家・王方が姿を消して……。

「食指——ひそやかな詩の旅」

1995年発表／飯塚容訳

朱文(ジュウ・ウェン)福建省泉州出身

1989年1月に失踪した詩人の呉新宇。同年6月、彼の不在が初めて話題に上がり、詩人仲間は彼のことを語り始める。失踪後の呉新宇の足取りを辿る「私」の前に、詩人と最も交流があったという男・呉農駿が現れる。

「やけど」

1993年発表／飯塚容訳

蘇童(スートン)江蘇省蘇州出身

魯迅文学賞、茅盾文学賞、華語文学メディア大賞、国際ブッカー賞候補

詩人の友人と酒を飲んだ翌朝、男は顔にひどいやけどを負っていた。記憶として残っているのは、友人が火に関する詩を朗読したこと。男は、詩に宿った神秘的な見えない炎が、自分の顔を焼いたのでは?と考え始め……。

「小心者」

1996年発表／飯塚容訳

余華(ユー・ホワ)浙江省杭州出身

フランス・芸術文化勲章、華語文学メディア大賞、ノーベル文学賞候補

いつも同級生にバカにされている楊高が小心者なのは、父譲り。しかし父はある日怒りを爆発させ、トラックを暴走させる。楊高もいじめに耐えかね、ついに友人を叩き斬ってやると宣言するが……。

「顔認証」

2018年発表／堀内利恵訳

范小青(ファン・シアオチン)上海市出身

魯迅文学賞

老夫婦の艾先生と曾お婆さんは、不動産を購入しようとしたが、顔認証に阻まれる。艾先生の顔が身分証撮影時の写真と50%以上一致しないのだ。さらに艾先生はスマホを盗まれてしまい、こちらも顔認証の問題で買い替えができず……。

「わが祖国は夢を見ない」

2003年発表／上原かおり訳

韓松(ハン・ソン)重慶市出身

世界華語SF星雲賞

ある日、人々は疲労困憊症状に悩むようになったが、国営企業が特効薬を開発したことで危機は回避された。平凡なサラリーマン・小紀は、自分のパフォーマンスは上がったものの、記憶にない買い物が増えたことを訝しみ……。

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

IV ジェンダーと多様な性

出産や結婚をめぐる選択、揺らぐ性的指向と性自認、親密な関係において生じる暴力など、性と生命の継承をめぐる葛藤を通じ、制度や社会通念と個人の欲望がせめぎ合う局面を描く8篇を収録。国家が規定する性の枠組みの中で揺れる、多様な愛と身体のあり方を問い直す。全篇初邦訳。著者は王安憶、張天翼ほか。

代表著者の紹介



Photo by Li Zhang

王安憶(ワン・アンイー)1954年江蘇省南京出身

茅盾文学賞、魯迅文学賞、華語文学メディア大賞、フランス・芸術文化勲章、レジオンドヌール勲章、国際ブッカー賞候補

文化大革命期の下放を経験し、1970年代から創作活動を展開。長篇『長恨歌』で茅盾文学賞を受賞。女性の視点から都市の変容や日常生活を丹念に描く作風が特徴。上海の路地や市民社会を精緻に描く「海派文学」の代表的な存在。作家活動の傍ら、中国作家協会副主席や大学教授も務めた。



Photo by Xue Kai

張天翼(ジャン・ティエンイー)1980年代天津市出身

納蘭妙殊というペンネームでデビュー。その後本名で発表した短篇集『如雪如山』で注目を集める。同作では、思春期から老年期まで、世代や境遇の異なる女性たちの苦難を寓意的に描き出した。性被害や産後うつ、孤独など、女性が直面する普遍的な痛みリアリズムの手法で迫ったことで高い評価を受けている。

IV 「ジェンダーと多様な性」収録作品一覧

「珠玉の提言」

未発表／濱田麻矢訳

張天翼(ジャン・ティエンイー)天津市出身

歴史は夫・老唐の親戚に頼みこまれて、老唐のいところでズビアン
の唐靖に、とにかく結婚して子供を産め、そのあとなら離婚しても構
わない、と説得に行くことに。唐靖の生き方に憧れる歴史は抵抗を
覚えるが……。

「水のように柔らかく」

1998年発表／濱田麻矢訳

王小波(ワン・シアオボー)北京市出身

南方の都市の警察官・小史。夜の公園のパトロールで同性愛者の
阿蘭を摘発した。夜の派出所で、阿蘭が自らの反省と性癖を語るの
を聞くうち、小史はいつの間にか彼を愛してしまった自分に気づく。

「『2181 序曲』再版によせて」

2020年発表／濱田麻矢訳

顧適(ゲー・シー)北京市出身

銀河賞、ヒューゴー賞候補、世界華語SF星雲賞

2088年、冬眠から目覚めた「私」は『2181 序曲』と題された本を手
に取り読み始める。冬眠実用化後の暮らしに関するこのインタ
ビュー集によれば、安楽死に代わる手段だった冬眠は、健康な人々
の投資手段になり……。

「柳僧」

2015年発表／田村容子訳

孫頻(スン・ピン)山西省交城出身

茅盾新人賞

倪慧は、睡眠障害と認知症の兆候のある母とふたり暮らし。父は
とくに亡くなり、夫とは離婚し仕事も辞めた。若い頃山西から湖南
に出てきて以来一度も故郷に帰っていない母を連れて、車での帰省
旅に出かけたが……。

「霹靂」

2020年発表／関根謙訳

鄭執(ジョン・ジー)遼寧省瀋陽出身

日本翻訳大賞

「僕」と妻は北京郊外のタワーマンションに越してきた。結婚して3
年。稼ぎのない「僕」は妻の収入に頼っている。新居は素晴らしいが、
時々耐え難い腐臭がある日、妻の部屋の窓の下に猫の死骸がある
ことに気づき……。

「ひとすじの煙」

2017年発表／田村容子訳

胡遷(フー・チエン)山東省済南出身

北京北東郊外の金盞村。違法建築が立ち並ぶ荒んだ一角に、南方の
美術学院で学んだ「私」がやってくる。同じ絵しか依頼されない鬱屈
を抱えつつ、友人・李寧、その恋人の慧姐との奇妙な同居生活の中
で暴力と性の気配を感じ取る。

「鏡の中の姉妹たち(仮)」

2003年発表／松村志乃訳

魯敏(ルー・ミン)江蘇省東台出身

魯迅文学賞

江蘇省の小さな県。小学校教員と元工場の放送員の夫婦の間に5
人の娘が生まれた。容貌に恵まれた5人の娘たちはすくすくと育つ。
姉たちが繰り広げる愛情のもつれを眺めながら、末娘の「小五」はあ
る決意をする。

「ブラザーズ」

1989年発表／濱田麻矢訳

王安憶(ワン・アンイー)江蘇省南京出身

茅盾文学賞、魯迅文学賞、華語文学メディア大賞、フランス・芸術文化勲章、
レジオンドヌール勲章、国際ブッカー賞候補

1980年代の南京。ある美術大学に、既婚の女子学生が3人だけという
学年があった。彼女たちは「兄弟」の誓いを立て、心を通わせる。卒業
後、それぞれの夫との暮らしの中で絆は失われるが、妊娠をきっかけに
「長男」と「次男」が再会し……。

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

V 風土と社会

内モンゴルやチベットの高原から、天津や東北の都市空間、そして香港まで。広大で多彩な風土を背景に、民族、歴史、労働、信仰が交錯する社会の現実を描く12篇。土地の記憶と環境条件が、中国特有の社会制度や人々の価値観を形成し、その社会の構成員の生や運命をいかに方向づけるのかを描き出す。著者は阿来、楊知寒ほか。

代表著者の紹介



Photo by 马尔康市委宣传部

阿来(アーライ) 1959年四川省バルカム出身

魯迅文学賞、茅盾文学賞、銀河賞

チベット族の農家に生まれる。少数民族文学を代表する作家のひとり。多角的な視点で民族と土地の変遷を記録する作風で知られ、茅盾文学賞を受賞した長篇『塵埃落定』では、チベット高原の歴史と風土を背景に、封建領主制度の終焉と近代化の衝突を壮大に描いた。SF雑誌の編集長や四川省作家協会主席も歴任している。



楊知寒(ヤン・ジーハン) 1994年黒龍江省チチハル出身

ブランパン・理想国文学賞、茅盾新人賞

回族出身で、「新東北作家」を象徴する気鋭の女性作家。代表作『一団堅冰』でブランパン・理想国文学賞などを受賞。登場人物が抱く微妙な感情を細やかに掬いとり、東北の街や社会の周縁に生きる人々の孤独と生命力を描き出す作風が人気を博し、2024年に茅盾新人賞を受賞した。

V 「風土と社会」 収録作品一覧

「藍橋飯店」

2021年発表／飯塚容記

楊知寒(ヤン・ジーハン)黒龍江省チチハル出身
ブランパン・理想国文学賞、茅盾新人賞

東北の小さな町でひとり暮らし「おれ」は、同じく離婚経験者の女店主のもとで料理人として働いている。ある日、手間のかかる料理を注文する男が現れた。彼は、その料理が好きだった別れた恋人を待ち続けているという。

「老夫婦と愛馬」

2003年発表／竹内良雄記

遲子建(チー・ズージェン)黒龍江省漠河出身
魯迅文学賞、茅盾文学賞

強姦犯の息子を持つ老夫婦は、馬を息子代わりにしていた。ある日、馬車から落ちたお婆さんが亡くなり、次にお爺さんが亡くなる。ふたりの息子に強姦された女は老いてもなお怨みを忘れず、老夫婦の死につけこんで……。

「酒よ」

2003年発表／上原かおり記

張抗抗(ジャン・カンカン)浙江省杭州出身

文化大革命時代の北大荒。酒の席で労働者が親友に殺されるといふ事件があった。犯人の取り調べを見届けることになった陸徳。彼は酒を一滴も飲めないが、殺した者・殺された者の間にあった事情を、誰よりも深く理解する。

「市井の人々」

1994年発表／立松昇一記

馮驥才(フォン・ジーツイ)天津市出身
魯迅文学賞

必ず銀貨7枚を要求する接骨師。酒を水で薄めて出す居酒屋に毎日通う婆さん。患者の顔は覚えられないが歯並びだけは記憶している歯科医。李鴻章の面子を保った茶湯売り。天津に生きる、一癖ある人物たちの物語。

「ハンター」

2002年発表／塩旗伸一郎記

賈平凹(ジア・ピンワー)陝西省丹鳳出身

フランス・芸術文化勲章、フェミナ賞、茅盾文学賞、魯迅文学賞、華語文学メディア大賞
美女の夏清に魅入られた戚子紹は、彼女にいいところを見せるため、知り合いの社長と夏清、そして彼女の友達と共に山奥へ狩に出る。熊の掌を食べたいとはしゃぐ女たちのために出かけた山奥で、戚子紹が出会ったのは……。

「消えない噂」

2014年発表／飯塚容記

勞馬(ラオマー)遼寧省大連出身

県共産党委員会書記の譚は、省規律検査委員会の緊急会議に呼ばれた。彼が逮捕されたとの噂が駆け巡ると人々は爆竹を鳴らして大はしゃぎ。実際は彼は昇進したのだが。その後もなお、人々は譚失脚の噂を流し続けて……。

「馬嘶嶺の殺人」

2004年発表／大久保洋子記

陳応松(チェン・インソン)湖北省公安出身
魯迅文学賞

「俺」は九財叔に斧で頭を殴られ、死にかけている。共謀して7人を殺し財物を奪ったが、全部独り占めされてしまった。そもそもの始まりは、九財叔に誘われ、一緒に馬嘶嶺で荷担ぎの仕事をしたことだった。

「空砲(仮)」

2018年発表／大久保洋子記

王占黒(ワン・ジャンヘイ)浙江省嘉興出身
ブランパン・理想国文学賞

爆竹が禁止された南方の小さな町。爆竹屋の店主、その客、巡回する公務員、元旦の始発バスを担当する運転手、清掃員など、誰もがいつもと違う年越しになったことを感じていた。その晩突然爆音が鳴り響き……。

「不発弾処理(仮)」

2022年発表／後藤典子記

葛亮(ゴー・リアン)江蘇省南京出身
魯迅文学賞

香港の高層マンションに暮らす人類学者の「彼」。近所の建築現場から不発弾が見つかったと聞き、避難先に向かう。そこで近所の若い女性と会話しながら、「彼」は別れた恋人やその父親違いの兄との過去を思い出す。

「少年詩篇」

1993年発表／山口守記

阿来(アーライ)四川省バルカム出身
魯迅文学賞、茅盾文学賞、銀河賞

チベットに育った少年・テンバ。「外公」は血のつながった外祖父ではなく、母方の伯父と一緒に寺院にいたチベット仏教の僧侶で、強制的に還俗させられて共に羊飼いになったのだった。テンバは従姉と一緒に伯父の恋を見守っていた。

「老人と羊」

2009年発表／後藤典子記

ツェリン・ノルブ(次仁羅布)チベット自治区ラサ出身
魯迅文学賞

ラサで暮らす老人の「私」は、ずいぶん前に亡くなった妻が何かを訴える夢を見る。その翌日に出会った羊に運命を感じ、放生する目的で買い取り、日夜を共にするようになった。ある日、「私」に末期の胃癌が見つかり……。

「ある牛との晚餐」

2021年発表／関根謙記

索南才讓(ソナム・ツェラン)青海省海北チベット族自治州出身
魯迅文学賞

酔っ払って頭が朦朧としている友人に、「僕」は命を助けてくれた牛にご馳走を振る舞ったことを話す。突進した牛が風力発電の支柱を倒し、「僕」は足を挟まれたが、その牛が支柱をどけてくれて……。

タイトル・内容は一部変更になる場合があります。

編集委員のことば



このシリーズで紹介する50篇あまりの小説は約30年前から近年までの中国文学の精華です。これらの作品を通じて、中国の歴史と現状、中国文学の奥深さを知ると同時に、隣国の人々の生活と本音にも触れていただきたいと思います。

飯塚 容 (イイツカ ユトリ)

1954年北海道生まれ。翻訳家・中央大学名誉教授。訳書に余華『活きる』、高行健『靈山』など。中国の書籍の翻訳出版や文化交流の分野での功績が称えられ、2011年に第5回中華図書特殊貢献賞を日本人で初めて受賞している。



荒唐無稽なトンデモSF、じわりと沁みるラブストーリー、政治の話、ご飯の話……知っているようで実はよくわからない、知らないはずなのになぜか共感できる、そんな中国の物語を集めました。ぜひ何篇か、お気に入りに出会っていただけますように。

濱田 麻矢 (ハマダ マヤ)

1969年兵庫県生まれ。神戸大学人文学研究科教授。中国語圏の現代文学を専門分野とし、なかでも性別表象に関心を持つ。著訳書に『少女中国——書かれた女学生と書く女学生の百年』、張愛玲『中国が愛を知ったころ——張愛玲短篇選』、同『半生の絆』など。



Photo by 神ノ川智早

現代中国文学の根底に流れている共通テーマは、あったかさ。情への喜び、もしくは情のない世界の冷え、または表面上はクールに振る舞う、ハードボイルドな情。ぜひ多彩な情の世界を体験してください。

綿矢 りさ (ワタヤ リサ)

1984年滋賀県生まれ。芥川賞作家。自身の北京滞在経験をもとに小説『パッキパキ北京』を刊行。2026年夏には『シャブシャブ上海』を刊行予定。北京や上海で日本文学について講演を行っており、現地の人々と交流している。

カバーアート



LILY NIGHT (リリー・ナイト)

1988年中国黒龍江省ハルビン生まれ。美学と認識論に関する研究を経て、2019年東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修了。日本国内外で多数の展示をおこない、国境を越えたアーティスト活動を展開している。身体性と行為、実存の条件、各々の存在の関わり方、その先にある主体性と空間の問題について関心を持ち、制作テーマとしてドローイングとペインティングからはじめ、写真、ミクストメディアによる制作を通して、定着しつつある現代アートの表現域を拡大、増幅させるような活動をしている。参加型NPO多言語雑誌プロジェクト「bpmf」主宰。

実物大見本

読みやすい書体と美しい
レイアウトにこだわりました。

▶班字「さすらい」／「移動と漂流」所収 冒頭

私はクリーム色のマフラーをしてプラスチックの小さい腰掛けにすわり、下半身を厚い布団で覆っていた。腰掛けは以前、学校の運動会のために数円で買ったものだ。ずっと使い続けているが、変形していかない。背後のアパートは東北製薬工場の寮で、一階を柵で囲み鉄板をかぶせてあるので、遠くから見ると監獄のようだった。しなびたネギとハクサイをきちんと並べて干してあるから、すぐに老人が住んでいるとわかる。荷台を前に取り付けた三輪自転車は、柵につないであつた。私は柵に寄りかかり、日向ぼっこをしていたが、冷たい風に吹かれて顔が痛かった。許福明は十歩離れたところにいる。ぼったり出会った元同級生と憂い顔で雑談中だ。彼は誰と会っても、繰り返し同じ話をする。絶対に聞きたくなかったが、話は耳に入ってきた。

元同級生は言った。携帯番号を覚えてちょうだい。クラスのみんなとつながってるから、あとで一緒に方法を考えて、手助けするわ。許福明は言った。携帯なんか持つてるはずがない。娘のせいで、もう死にそうだよ。元同級生は言った。大変ね。許福明は言った。そう言えば二年前、市場で会ったよな。あのときと比べて、いまのおれはどうだ。七十歳だと言っても、信

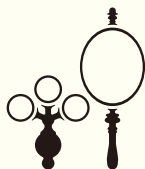
じてもらえるだろう。元同級生は言った。それほどでもないわ。気を落とさずに、現実に向き合って、生きて行かなくちゃ。許福明は言った。ああ、そのとおりだが、問題は終わりが見えないってことなんだ。

立ち去る前に、元同級生はポケットから五十元札を取り出し、無理やり許福明の手に握らせて言った。私も余裕はないけど、亭主がまだ定年前で夜警の仕事をしてるから。これは、ほんの気持ちよ。私はそばで叫んだ。お父さん、もらっちゃダメだよ。許福明は形だけ何度か遠慮したが、やはり受け取った。そしてズボンのポケットから塗料の剝けたクリップを取り出すと、元同級生の目の前で紙幣を金額順に整理して、この高額の五十元札を正しい位置に挟み

016

ブックデザイン：川名潤

中国現代文学
ギャラリー



『中国現代文学ギャラリー』は、シンボルとして3枚のレンズを持つルーペと1枚の手鏡に思いを託している。シンボルにしては具体的な形に留めた理由は、そこに込めた意志をそのままに届けたかったからだ。さまざまな視点で隣国の友人たちの物語を深く見つめ、その光を鏡に反射させて、自分自身の心をも照らし出す。このシンボルが、未知なる物語と出会い、まだ見ぬ自分をかえりみるための道具となることを願いたい。(川名潤)

『中国現代文学ギャラリー』刊行に当たって 飯塚容 翻訳家・中央大学名誉教授

中国文学は文化大革命終結を契機に、1970年代末から空前の活況を呈した。文革で批判を受けて沈黙していた作家たちが復活する一方、多くの新人作家が登場している。内容的には、文革の「傷痕」を描く「傷痕文学」、中華人民共和国史を振り返り内省を迫る「反思文学」、改革開放政策の現状を描く「改革文学」から始まり、1980年代中期には西洋文学やラテンアメリカ文学の影響を受けて、従来のリアリズム一辺倒の文学様式を打破しようとする「先鋒文学」、中華民族の伝統文化に根ざした「尋根文学(ルーツ探究の文学)」から多くの佳作が生まれた。また少し遅れて、リアリズムの伝統を批判的に継承し、日常の身近雑事を描く「新写実小説」の作家たちも現われ活躍している。他方、この間に中国の文学界は思想引き締め政治キャンペーンを何度か経験し、1989年の「六四天安門事件」で決定的な挫折を味わうことになった。

1990年代以降の中国文学は、こうした負の遺産を作家個人がそれぞれ克服、昇華させて、より深みのある作品を生み出してきた。だが、日本における翻訳紹介は散発的で、決して十分だったとは言えない。1980年代までは日中友好ムードを反映して、各出版社が規模の大きい全集類の刊行を活発に進めたが、1990年代以降はバブル経済崩壊の影響もあり、大掛かりな企画は実現しにくい状況が続いてきた。そのような中で、集英社が創業100周年記念企画として刊行する本シリーズ(全5巻)は、一部の例外を除いて1990年代から現在までの中国現代文学作品(55名の作家の中短篇小説)を収録する。日本の読者が、文学を通じて隣国に暮らす人々の日常を知り、作家たちが作品に込めた思いを理解する機会となることを期待している。

『中国現代文学ギャラリー』刊行予定

第1回配本 「移動と漂流」	ISBN978-4-08-157022-5	2026年11月5日(木)
第2回配本 「家族とくらし」	ISBN978-4-08-157023-2	2026年12月4日(金)
第3回配本 「時間と記憶」	ISBN978-4-08-157024-9	2027年 1月7日(木)
第4回配本 「ジェンダーと多様な性」	ISBN978-4-08-157025-6	2027年 2月5日(金)
第5回配本 「風土と社会」	ISBN978-4-08-157026-3	2027年 3月5日(金)



四六判ハードカバー 400ページ前後

本体予価3,000円/予価3,300円

タイトル・内容は変更になる場合があります。

中国現代文学ギャラリー特設サイト <https://lp.shueisha.co.jp/cgl>



本から生まれる、無限の可能性



〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10
<https://www.shueisha.co.jp/>

2026.6.1. 第二版 非売品 集英社